

2015. 3. 29～3. 30 森林立地学会現地研究会
『黒松内・北限のブナ林の特徴と気候変動による分布変化』

今回の現地研究会は北海道寿都郡黒松内町を舞台に開催しました。北限のブナ林として国の天然記念物に指定されている歌オブナ林をかんじきで歩きながら観察しました。また、黒松内のブナ林の特徴やブナの気候変動に対する影響など、ブナに関するシンポジウムを行いました。

1日目の朝、32名の参加者は札幌駅に集合し、バスに乗って黒松内まで移動しました。途中中山峠で休憩し、洞爺湖畔のサイロ展望台で昼食を取りました。バス内では元森林総研・眞田氏による天然更新施業地について話題提供があり、バスから降りて現地の状況を観察しました。また、森林総研・田中氏による北海道での最新研究事例について、北大・春木氏による有珠火山噴火後の植生と土壌の回復について、森林総研・相澤氏からは長期施肥試験について、それぞれ説明をいただきました。



黒松内に到着。黒松内町ブナセンターの斎藤氏から展示内容の説明をいただきました。



斎藤氏の案内により、歌オブナ林を散策しました。慣れないかんじきに苦戦していた人もいましたが、楽しみながら冬のブナ林を観察しました。北限とされるブナ林は、想像していたよりも大きく、立派なブナであったことに参加者は驚いていました。



ブナ林の散策後は、宿泊する歌才自然の家にて森林立地学会の総会が開かれました。総会では各審議事項の討議の他、論文賞の表彰が行われました。受賞者を代表して宇都宮大・大久保氏に丹下会長から賞状が渡されました。



2日目は、シンポジウム「黒松内・北限のブナ林の特徴と気候変動による分布変化」を開催しました。斎藤氏による「北限のブナ林の特徴」、春木氏による「黒松内周辺におけるブナ林と土壌の特徴」、北海道教育大・紀藤氏による「北海道における完新世以降のブナの拡大」、森林総研・北村氏による「北海道におけるブナの遺伝的特徴」、田中氏による「北海道におけるブナの分布拡大と将来予測」の5題の講演がありました。北海道のブナの特徴や歴史、ブナの生育する立地環

境、遺伝的特徴や将来予測など、最新の研究を含む多岐にわたる内容で大変聞き応えのある講演会になりました。総合討論では、多くの質問や意見が出され、大いに盛り上がりました。



お世話になった歌才自然の家で記念撮影をして、解散場所の新千歳空港を目指しました。帰りのバス内では大久保氏による本州ブナ林の小蛾類の多様性についての話題提供がありました。



参加者の皆様のおかげで、充実した現地研究会にすることができました。現地をご案内いただきました黒松内町ブナセンターの斎藤さんをはじめ、ご講演・ご説明いただきました方々に感謝申し上げます。

研究会の詳細は森林立地 57(1)、43～48 ページをご参照ください。

(文責 事業幹事 志知幸治)